

絵本作家・長谷川義史さんインタビュー

歯科予防伝える絵本

永田 インタビューを引き受けてくださり、ありがとうございます。

長谷川 歯医者さんの団体が平和を願って活動しているというメールをいただいて、「ええことやなあ」と思いました。歯科医師の先生にはあまり出会う機会がありませんので、友だちになっておいたらさっとええことあるなって(笑い)

永田 ぜひお友達に(笑い) 実は長谷川先生の大ファンで、一度お会いしたいと思っていました。先生はむし歯予防の大切さを伝える絵本『きらきは・は・歯』も描かれていますね。

長谷川 絵本の文を担当した俳優の室井滋さんと仕事で山形県酒田市に行ったことがきっかけなんです。予防歯科で有名な熊谷崇先生が「子どもに予防歯科の大切さを分かりやすく伝えられたら」と話されていて、そしたら絵本で伝えましょうということでした。

永田 そういう経緯だったんですね。長谷川 ぼくね、ちなみにむし歯がないことが自慢だったんですわ。55

歳ぐらいの時に急に激痛になって、50年ぶりぐらいに診察してもらった。「親知らずが膿んでいる」と即、手術。人生で一番痛かったです。

永田 別の著書では「むし歯がない」と書かれていたので、予防をしっかりしてはるのかなと思っていました(笑い)

長谷川 書いてましたっけ? 人の上に歯磨きをしていたこともないんですけど、お菓子が嫌いで甘いものを全然食べないことが良かったのかな。今は予防歯科に通って、むし歯や歯周病にならないように健診やクリーニングをしてもらっています。

障がい者施設で朗読

永田 先生は障がい者施設に自身の絵本を読みに行っていますね。

長谷川 コロナ禍で最近に行けませんが、施設の方が「また来てください」と言ってくれますのでね。実は最初に訪問する時、どんな反応があるのか分からず、ちょっとビビってました。

永田 私は障がい者歯科でも治療をしています。診療室には寝る子が多いですね。診療台には覆られへんけど口だけは開けている子も



平和な世の中で自由に

いて、そういう姿を見ると「気持ち

はがんばってんねん」という心の声が聞こえてくる気がします。子ども

の内面まで映し出す先生の絵本の1コマみたいなところがありますね。

長谷川 障がいのある方も千差万別ですから、奇声を発する人もいますし、走り回る人もいます。せやけど、絵本を読み終わればものすごい喜んでくれて。ダイレクトな反応を示してくれるんです。ぼくの絵本を覚えていて、次に訪問した時にはセリフを先に言ってくれるんですよ。

永田 セリフを覚えているんですか。長谷川 はい。セリフのキャッチボールみたいな。大変ですけど、ライブのリアルな掛け合いは本当にやり

がいがありませんね。

正直に計算せず描く

永田 創作する時はどのようなことを心掛けているのですか。

長谷川 子どもの頃の気持ちのまま正直に計算せずに絵を描きたい、と思っています。というか、テーマとか考えてよう描きませんね。恥ずかしいながら。

永田 それは意外ですね。長谷川 自分の中から出てきたものを表現しているだけなんです。それを読んだ子どもや大人から「こういうことを感じました」と反応があったら、初めてぼくはこういうことを言

ことも多いんです。

永田 それはどの作品で感じましたか。

長谷川 ずっとそうです。デビュー作の『おじいちゃんのおじいちゃん』のおじいちゃんのおじいちゃん

は、おじいちゃんをさかのぼっていったら大昔の人とつながっているな、という子どもの頃の発想を絵本にしたんです。すると、読んだ人からは「命のつながりを感じた」と。

『いいからいいから』という絵本では、「敵対せず、相手を受け入れる言葉であり平和につながる」みたいな声が返ってきて、「こういうふう

に受け止められるんや」と。永田 自分の手から離れ、読む人によって絵本が育っていくような感じがしますね。

長谷川 講演会では、いろんな人から寄せられた感想を自分の言葉のよ

アイデアは会話から

永田 絵本のアイデアはどのような時に浮かんでくるのですか。

長谷川 いつか分からないんですよ。ふっとした時ですね。

永田 あふれる才能でどんどんアイデアが出てくるのでは。

長谷川 全然、何もあふれていません(笑い)

永田 そうすると生みの苦しみが

長谷川 めっちゃ苦しいです。でも、適当なものは描きたくないです。アイデアを出すには何か動いてないとあかんような気がします。コロナになって特にそう思います。外に出て、人と会うとか、飲み屋に行くとか。良いことも悪いことも起きないと話の糸口がつかめない。

永田 コロナ禍は創作活動にも影響を与えているわけですね。

長谷川 編集の人と話しているなかで、「その話、絶対おもしろいです

「子どもの頃の気持ちのままに正直に描きたい」と話す長谷川氏(右)と永田氏



長谷川義史さんの主な絵本

- おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん (2000年、ピーエル出版)
- いいからいいから (2006年、絵本館)
- ぼくがラーメンたべてるとき (2007年、教育画劇)
- てんごくのおとうちゃん (2008年、講談社)
- だじやれ日本一周 (2009年、理論社)
- ようちんいやや (2012年、童心社)
- へいわってすてきだね (詩・安里有生、2014年、ブロンズ新社)
- きらきは・は・歯 (文・室井滋、2014年、世界文化社)